

津消防タイムズ

第53号

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町
2276 番地

編集 消防総務課
企画調整担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

火災の問い合わせ
☎059-224-1881

三重県救急医療情報センター
コールセンター
☎059-256-1199

津市救急・健康相談
ダイヤル 24
☎0120-840-299



↑津方面団徒歩部隊による分列行進



↑お城公園西側で一斉放水

一月十二日、西丸之内の津リ
ジョンプラザ周辺で平成二
十六年津市消防出初式を催
し、消防関係者ら約七百人が参
加しました。
この出初式は、消防職員や消
防団員などの士気高揚を図る
とともに、市民の皆様にも消
防活動への理解と信頼をより深
めてもらふことを目的に開催
しています。

津市消防出初式を開催 (消防総務課)

まず津リジョンプラザお
城ホールにおいて式典が行わ
れ、消防団活動に尽力してい
る消防団員やその御家族に対
し表彰が行われました。
式典の後、屋外において消防
団のラッパ隊による演奏や木
遣り、めぐみ分団による操法の
披露、消防団や婦人防火推進委
員会の徒歩部隊、子ども消防隊
長が乗車した消防車などによ
る分列行進が行われました。
その後、お城公園西側のお堀
で、消防団員らによる一斉放水
が行われ、消防関係者らが今
年の防火・防災の心構えを新
たにしました。(小林 隆幸)



↑子ども隊長が救助工作車Ⅲ型に乗車し分列行進

台風三十号被害に伴う フィリピンへ災害派遣

津市消防の救急救命士で、独立行政法人国際協力機構（JICA）に登録している職員四名の中から二名が、台風第三十号により甚大な被害を受けたフィリピン共和国に、国際緊急援助隊医療チーム（医療調整員）の一員として現地に派遣されました。

十一月八日から九日にかけて通過したフィリピン共和国の台風三十号に伴い、国際緊急援助隊医療チームの第一次隊、団長以下二十七名の一員として久居消防署の伊野匠指揮隊長と北消防署の中島一晃主査が十一月九日から二十四日までフィリピン共和国に派遣されました。

この災害は、台風に伴う高潮、地滑り、洪水によるものであり、特にレイテ島周辺の被害が大きく、チームは日本から持参した TENT や医療資器材を使用し診療所を立ち上げ、診療を実施しました。



↑ 医師と共に処置をする
伊野指揮隊長



↑ 血圧測定をする中島主査

被災地での活動はわずか二週間でしたが、現地の人々とも友好的な関係を築き、また支援できたと思います。しかし、復興にはまだまだ時間が掛かると思っていますので、これから何らかの形で協力したいと思えます。（中島 一晃）

三重矯正展で展示

（中消防署）

十月五日、三重刑務所にて第二十七回三重矯正展が開催され、中消防署も現地へ出向して、煙体験、非常持出袋の展示コーナーを開設しました。

この三重矯正展には、毎年四千人以上の来場があり、今回の展示でも大勢の方々とは触れ合うことができました。

煙体験ハウスを体験された家族連れのお父さんは、「煙が充満したハウスの中をハンカチで口を覆い、身体を低くして進む子供の姿が頼もしく見えた」と述べていました。

（茨木 和隆）



↑ 煙体験ハウスに挑戦

県防災・県警察・海上保安庁・ ドクターヘリ見学会

（南分署）

十一月二日、三重県防災航空隊二十周年の記念として、津市伊勢湾ヘリポートにて見学会が実施されました。

日頃、津市伊勢湾ヘリポートを基地として運航している県防災航空隊、県警察航空隊、ドクターヘリ及び海上保安庁のヘリコプターが、それぞれの業務活動を県民に理解していただき、防災活動に対する関心を高めることを目的として実施されました。

消防からは、久居消防署のはしご車、南分署の消防車・救急車の展示を行いました。



募集人数は二百人と限られていましたが、未来を担う子供は、熱心にヘリコプターや展示車両を見学していました。

(池村 光弘)

鈴鹿消防との合同訓練を実施

(河芸分署)

十一月六日、河芸町東千里の三重ダイケン河芸工場において、津市北消防署と鈴鹿市南消防署による合同火災防ぎょ訓練を実施しました。

鈴鹿市と隣接する工場で建物火災が発生し拡大したため、三重県内消防相互応援協定に基づき鈴鹿消防に応援を要請したとの想定で、工場の自衛消防隊による初期消火、避難誘導、負傷者の搬送訓練とともに、有事の際の相互の連携を確認しました。

東日本大震災発生時のように、県内外を問わず緊急消防援助隊として出動することもあり、他市の消防との合同訓練の重要性を再確認できた有意義な訓練となりました。

(奥田 仁)



↑鈴鹿消防と合同で放水

泡消火訓練を実施

(安濃分署)

一月十六日、安濃町草生地内の資材置場にて、中消防署安濃分署職員による泡消火剤を使用した消防訓練が実施されました。

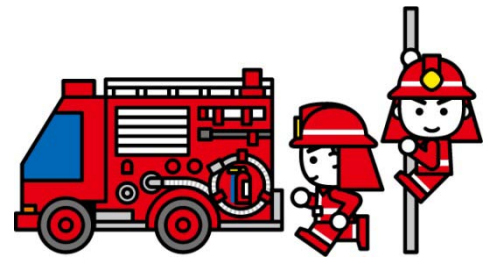
泡消火は車両火災や工場火災などで水による消火が困難な火災の際に行うもので、放水する筒先の先端に専用の器具を取り付け、泡消火剤を使用するため、実際に現場で使用した経験のない職員にとっては、貴重な訓練となりました。



↑泡消火を行う消防隊員

職員はそれぞれの作業が確かかつ迅速に実践できるよう確認しながら訓練に励んでいました。

(井上 拓也)



年末の夜に・・・

(久居消防署)

年末の夜に「指輪を抜いて欲しい！」と四十歳の女性が久居消防署に悲痛な面持ちで駆け込んできました。

指輪をはめていた薬指が紫色に変色し、あまりの痛さに我慢ができず整形外科を受診したところ、消防署に指輪を抜く良い資器材があるから、このことで来庁したそうです。

しかし・・・消防署にある良い資器材とは超アナログの「爪糸」です。それを見た女性は「イメージと違う」と動揺を隠せませんでした。一〇分ほどの爪糸による指輪抜き作業の痛みに耐えて、無事に指輪を抜くことができました。

女性から「思い出が詰まった大切な指輪を切断せずに良かった」と感謝されました。

消防は火災、救急、救助の他に様々な対応を求められます。今後も市民からの負託に応えるよう職員一同専念したいと思います。

(横山 博)

チャリティーゴルフ大会で 住宅用火災警報器などを寄贈

九月二十五日、津市消防団の有志によるチャリティーゴルフ大会が開催され、住宅火災において火災の早期発見に有効な住宅用火災警報器と、これらの津市を担う子どもたちの防火教育の一環として、子ども用防火服および制服が寄贈していただきました。

住宅用火災警報器は、十一月九日に開催した消防・防災フェスティバルに会場された市民に抽選で配布され、また子ども用防火服等は、一月十二日に実施した平成二十六年消防出初



←谷口団長から目録贈呈

↑出初式で寄贈いただいた衣類を着用した子どもたち

式で子ども隊長、子ども署長が着用し、分列行進に参加しました。
(宮田 憲一)

香良洲方面団表彰伝達式

(香良洲分遣所)

一月十二日、香良洲町のサンデルタ香良洲で、津市消防団香良洲方面団表彰伝達式が実施されました。

日頃の消防団活動に顕著な功績があった団員に対し表彰されるもので、表彰状を受け取った消防団員は、「今後もより一層の消防団活動に努力したい」と決意を新たにしていました。
(高岡 正弘)



↑伝達式の模様

美里地区自治会

防災訓練を実施

(美里分署)

十一月二十四日、美里町家所の長谷山ハイツ第一自治会において、防災訓練を実施しました。

管内で大きな地震が発生し被害が拡大しているとの想定で、住民避難の広報活動から始まり、公園まで避難の実施、人数を把握後、救出、救護、初期消火の各班に分かれて活動する内容で行われました。

山沿いに位置する美里地区は、巨大地震発生時は家屋の倒壊、山の崩落などによる被害が考えられます。

当日は、津市消防団美里方面団アザリア分団にも協力していただき、訓練内容も充実したものになりました。

たくさんの方が集まることで大きな力となり、地区住民の協力の再確認ができ、防災意識の向上につながる訓練でした。

(井川 幸則)



↑公園へ避難を実施

三方面団合同応急手当

普及員講習を実施

(白山消防署)

二月九日、白山消防署で、白山・一志・美杉の三方面団合同の応急手当普及員講習(第一回目)を実施しました。これまで白山方面団の救護隊は、毎年六回訓練を実施していましたが、『応急手当に関する知識と技術を正しく一般市民に普及する』ため、より上の資格である「応急手当普及員」の取得を目的に開催したものです。

当初、白山方面団単独で実施する予定でしたが、一志・美杉



↑ 応急手当普及員講習に取り組む
消防団員

の両方面団からも受講希望があり、合計二十六名の消防団員が参加しました。
この講習は二十四時間の受講（各八時間×三回）が必須となっており、資格認定されましたら、『普通救命講習』を教えることのできる立場となります。しかしながら、講習中に欠席や遅刻等があった場合は資格の認定はされず、また、最終日には効果測定も実施されるため、受講した団員は、終始真剣に座学と実技を行い、人命救助への熱意を感じさせる講習となりました。（森川 恵一）



↑ 防災航空隊と連携し消火訓練を実施

一志方面団・一志分署 林野火災訓練を実施 （一志分署）

十一月三日、一志町井生及び田尻地内にて平成二十五年度津市消防団一志方面団・白山消防署一志分署林野火災訓練が実施されました。

訓練は秋の火災予防運動に先立ち、山林に覆われている一志地域の特性を鑑み、山林火災に対して迅速確実な消火活動と消防機関、防災航空隊との連携を確認することにより、火災による被害軽減、地域住民の安

全安心を図ることを目的とし、白山消防署一志分署、津市消防団一志方面団、三重県防災航空隊、津市一志総合支所、津南警察署から約一八〇名が参加し、地上と空中からの消火訓練を連携協力し、本番さながらに行われました。（山口 省治）

全国女性消防操法大会 （美杉分署）

（美杉分署）

津消防タイムズ前号にも掲載しました、「全国女性消防操法大会」が十月十七日に横浜市において開催されました。当市から美杉方面団の女性分団「めぐみ分団」が出場し、四十七チーム中、十五位という輝かしい成績を収め、ほぼ一年間にわたる厳しい訓練の成果を十分に発揮することができました。

この貴重な経験を糧に今後も市民の安全・安心を守るという本来の責務を精一杯遂行していきます。

多大なるご支援ありがとうございました。（田村 和也）



春の火災予防運動
消すまでは
心の警報
ONのまま
平成二十五年度全国統一防火標語



↑ 応援、ありがとうございました！

文化財防火デー

昭和二十四年一月二十六日に、奈良県斑鳩町の法隆寺の金堂が炎上して壁画が焼損したことを契機に、昭和三十年、当時の文化財保護委員会（現在の文化庁）と国家消防本部（現在の消防庁）が、文化財を火災や震災、その他の災害から保護するとともに、国民一般の文化財愛護思想の普及高揚を図ることを目的として、毎年、一月二十六日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動が展開されています。



↑はしご車や消防団車両からの一斉放水

津市消防管内においても、貴重な文化財を火災から守るために、文化財関係者や、地域住民と共に消防訓練を実施しました。

高田本山専修寺で

消防訓練を実施 (北消防署)

一月二十四日、第六十回文化財防火デーに伴い、一身田町の高田本山専修寺で高田本山自衛消防隊、一身田地区自治会、一身田自主防災協議会、津市婦人防火推進員、津市消防団津方面団、北消防署など総勢百四十名が参加し訓練が実施されました。

訓練は、震度六強の大地震により御影堂が倒壊し負傷者が発生、また出火、延焼拡大の恐れがあるという想定で、文化財の持出し搬送をはじめ、負傷者の搬送や避難誘導、初期消火訓練や放水訓練など様々な訓練を実施しました。

この訓練を通じ行政、文化財所有者、地域住民との連携及び地域住民の防火防災意識の向上を図ることが出来ました。今後も繰り返し訓練等を行い更なる連携、防火意識の高揚に努めていきます。

(田中 淳一)

谷川士清旧宅で

消防訓練を実施 (西分署)

一月二十六日、八町三丁目の谷川士清旧宅で文化財防火デーに伴う消防訓練を実施しました。

訓練は、付近住民によるバケツリレーによる初期消火をはじめ、西分署消防隊による火災防ぎよ訓練等を実施し、地域住民との連携を再確認しました。

(鎌田 直人)



↑谷川士清旧宅

みな月会からみかん贈呈

(消防団統括室)

十二月十七日、津市のボランティア団体「みな月会」から、年末警戒の激励品として、津市消防団にみかんを贈呈していただきました。

同会からのみかんの贈呈は今年で八回目となり、前葉市長と谷口消防団長が、伊藤会長から目録を受け取りました。

津市消防団員二千二百三名は、胸の中にもほっこり温かいものを感じながら、厳しい寒さの中、深夜に及ぶ年末の警戒活動を実施しました。

(山口 敬正)



↑伊藤会長から目録を贈呈

**平成二十五年度の
火災・救急・救助概況**

【火災】平成二十五年中に市内で発生した火災は百六十八件で、市町村合併後最多となりました。そのうち住宅火災は四十七件でした。また、火災による死者は六人で、うち住宅火災による死者は五人でした。

住宅火災の原因は、「こんろ」、「放火・放火の疑い」、「たばこ」、「ストーブ」による火災が多く見られました。

区分	平成25年	平成24年	増減
火災件数合計	168	127	41
建物火災	73	59	14
うち住宅火災	47	35	12
林野火災	9	2	7
車両火災	11	19	▲8
船舶火災	0	1	▲1
その他の火災	75	46	29
死者(人)	6	2	4
うち住宅火災	5	1	4
負傷者(人)	12	9	3

▲は減を示す

救急車の適正利用に御協力を

【救急】平成二十五年に市内で発生した救急出動件数は一万四千百九十六件で、急病が八千七百四十二件と全体の約六十一%でした。また、救急出動全体の約五十三%が軽症患者でした。軽いけがや病気(擦り傷、歯痛、風邪など)の場合などは、自家用車やタクシーなどでかかり付けの医療機関で受診してください。

区分	平成25年	平成24年	増減	
出動件数	14,196	13,849	347	
搬送件数	12,827	12,548	279	
搬送人員(人)	12,995	12,722	273	
主な事故種別 (出動件数)	急病	8,742	8,395	347
	一般負傷	2,213	2,198	15
	交通事故	1,369	1,415	▲46

▲は減を示す

区分	平成25年	平成24年	増減	
出動件数	132	113	19	
活動件数	72	72	0	
救助人員(人)	73	74	▲1	
主な事故種別 (出動件数)	交通事故	67	63	4
	火災	9	2	7
	水難事故	11	9	2
	建物等による事故	19	8	11

▲は減を示す

【救助】平成二十五年中に市内で発生した救助出動件数は百三十二件で前年に比べ十九件の増加となりました。事故種別でみると、交通事故が六十七件あり、全体の約五十一%でした。昨年に比べて出動件数は増加しましたが、現場到着時、既に地域住民により救出済みで救助の必要がなかったものなどが多く、活動件数は昨年と同件数、救助人員は一人減少となりました。

区分	平成25年	平成24年	増減
119番受報	23,228	23,463	▲235
火災	198	169	29
救急	14,061	13,688	373
救助	119	108	11
警戒・調査	291	264	27
病院案内 問合せ いたずら等	8,559	9,234	▲675

▲は減を示す

【一一九番通報】平成二十五年中における一一九番通報の受理件数は、二万三千二百二十八件で、一日当たり約六十三件の一一九番通報を受けたこととなります。内訳を見ると、救急通報が一万四千六十一件と最も多くなっています。次に、次いで、病院案内等によるものが八千五百五十九件となっています。年々増加する救急搬送に迅速に対応するため、軽症は、医療案内 ☎二二五六―一一九九 にお問い合わせください。

30m級はしご付消防自動車を導入



中高層建物が増加した市域に対応するため、中消防署に20年前に配備された15m級はしご付消防自動車を、最新の仕様を積極的に取り入れた30m級はしご付消防自動車に更新しました。

約10階建ての建物に対応することが可能な最新仕様のはしご本体は、はしごの先端付近に関節を設け、先端部分を折り曲げることができる「先端屈折機構」により、フェンスや建物の前の電線を越えて、安全にかつ迅速に建物に近づいて救助することができ、はしご本体に設けた伸縮式の水路管で、放水用ホースを設置しなくてもスムーズな放水が可能になりました。

また、全長10m以上あるはしご車ですが、4WS（四輪操舵）を採用した車体で小回りの利く走行が可能となりました。



2月5日、中消防署に新たに配置された新型30m級はしご付消防自動車の機能・特性の習得と、救助手順を確認するため、津市中央の岡三証券(株)で合同訓練を実施しました。

新型はしご車による救助訓練では、建物4階に逃げ遅れた職員を救出する「はしご架梯訓練」や「屋内進入訓練」と、岡三証券(株)職員と中消防署の連携した「避難訓練」や「消火訓練」など、実践さながらの訓練が行われました。

今回の合同訓練を通じ、新型はしご車の特性を知ることにより、中高層建築物の火災をはじめ、水難救助等の災害に的確に対応できるよう、今後も訓練に励み防災体制の充実強化を図ります。

(中消防署 山本 直紀)



☆ 主な行事予定 ☆

- ◆ 三月上旬
春の火災予防運動に伴うパレード、防火訓練など
(市内各所)
- ◆ 三月二十三日(日)
第六十五回三重県消防大会
(三重県総合文化会館中ホール)
- ◆ 四月中旬
市長特別視閲
(消防本部)

編集後記

二週続けての積雪となった二十四日は、前回(八日)を上回る積雪となり、津市にも大雪警報が発表されるほどとなりました。全国的な今回の大雪で、高速道路内に一日以上閉じ込められたり、体育館の屋根が押しつぶされたりなど、さまざまに被害の報告がありました。市内では大きな被害はありませんでしたが、目の前の車が震むほどの降雪により、路肩にタイヤを落としたり、スリップして立ち往生する車が続出した十四日の朝は、雪に慣れていない私たちが雪の怖さを思い知りました。(宮田 憲一)

